昭島市教育委員会 殿

学校名 昭島市立共成小学校

校長名 森本 弘子 公印

令和5年度教育課程について（届）

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神を基調として心身共に健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童の未来に生きて働く力を培うため、主体的・対話的で深い学びを通して、基礎的な知識や技能の習得と、これらを活用できる思考力・判断力・表現力を養い、すすんで学びに向かう力と人間性を培うこと目指して、教育目標を定める。

・助け合う子 … 誰かのために自分ができることを考え実行する子

○考える子 … 思いや考えを共有し、学び合い、認め合う子

・きたえる子 … 声を掛け合い一緒に運動し、互いに支え合う子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 確かな学力の定着を期して、児童が自律的に学びを進め、「学びの実感」を得られる学校を創造する。

(ア) 個の習熟度に応じた指導・評価を一体的に展開し、基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣を確立する。

(イ) 児童に必要な資質・能力を明確にし、めあて・見通し・振り返りのある授業を展開する。

(ウ) 主体的・対話的で深い学びの視点に立って、指導内容・方法の工夫、学習過程の改善を推進する。

(エ) デジタル教科書などのICTや学校図書館、「ICT活用マニュアル」に基づく一人1台のタブレット端末を効果的に活用し、個別最適化された学びや協働的な学びを実現する。

(オ) 教科横断的・総合的な学習を充実させ、課題解決の過程でよりよく自己決定できる資質・能力を育成する。

(カ) 特別な支援を必要とする児童の課題や経験等に応じ、組織的にきめ細やかな支援の一層の充実を図る。

イ 豊かな心の醸成を期して、児童が自他を理解・尊重し、「協働意識」をもてる学校を創造する。

(ア) 教育活動全体を通じた人権教育の推進や体験活動の充実による自己肯定感・自己有用感の育成を図る。

(イ) 学校いじめ対策委員会を活用するとともに、児童の主体的な取組を推進し、いじめの未然防止を図る。

(ウ) 生命の尊さを学び、生命を大切に考えるや、自分や相手、一人一人を尊重する態度を身に付けるための「生命の安全教育」をはじめとする指導を推進するとともに、安全教育及び防災教育を充実させる。

(エ) 児童がよりよい学校生活を送るために学級満足度調査を活用し、個に応じた支援や集団への支援を行う。

(オ) 地域との交流を深め伝統を継承し、母校や地域を大切に思う心情や態度を育てる教育を推進する。

(カ) 道徳教育と特別活動を要として、人権感覚を高め、協力し合う喜びを体得する教育活動を展開する。

ウ 健やかな体の育成を目指し、児童が体力向上と健康に関心をもち、「心と体の元気」を感じる学校を創造する。

(ア) 「元気アップガイドブック」やコオーディネーショントレーニング等を活用し、体力の向上に主体的に取り組む児童の育成を図る。

(イ) 体力テスト等の結果を分析・活用し児童の実態を踏まえた指導を展開し、健康で安全な生活の基礎を培う。

(ウ) 組織的な食育の推進と、「アレルギー疾患対応マニュアル」に基づくアレルギー事故防止の徹底を図る。

(エ) 新型コロナウイルス等の感染防止対策の確実な実践及び定期的な見直しと、教育活動の両立を図るとともに、「グッドモーニング60分」等を活用して継続的に健康教育の充実を推進する。

(オ) がんに関する基本的な知識の習得及び命の大切さや自己の生き方を考えさせるがん教育を推進する。

エ 輝く未来に向かう心の育成を期して、児童が自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創造する。

(ア) キャリア・パスポートの活用による、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図る。

(イ) 教育活動の公開、学校関係者評価の活用、学習支援ボランティアの活用等、保護者・地域の教育活動への参画を促進する。

(ウ) ICTスキルを系統的・計画的に育てながらプログラミング教育の推進を図るとともに、情報社会での行動に責任をもち、情報を安全に利用できる力を身に付けさせる情報モラル教育及びデジタルシチズンシップ教育を、教育活動全体で推進していく。

(エ) 学校生活支援シート及び個別指導計画により、障害のある児童のニーズに応じた指導の充実を図る。

(オ) 幼稚園や保育所と連携し、就学時における適切な支援及び、スタートカリキュラムを実施し、円滑な連結を図るとともに、小・中9年間の連続性を意識し指導内容の充実・連携を図る。